

台湾・花蓮市と友好交流協定 締結

1/31



伊佐市は、台湾の東海岸にある花蓮市と友好交流協定を締結しました。

台湾福岡総領事館の陳銘俊総領事から提案を受け、首長や職員同士のオンライン交流を複数回実施。昨年11月には、魏嘉彦市長はじめ花蓮市役所の職員ら10人が伊佐市を訪問するなど交流を重ね、今回の協定に至りました。

1月31日、花蓮市での式典において、橋本市長と魏市長が協定書に署名し、教育、文化や芸術、スポーツ、観光、産業など幅広い分野で、今後、両市の友好交流を推進していくことを確認しました。

地域の河川を守る

2/5



平出水中央自治会が、河川愛護運動の優良団体として県知事表彰を受けました。

始良・伊佐地域振興局の北菌哲也建設部長は「美化活動は、地域の交流はもちろんだが、みなさんの心に潤いを与える。他団体の模範となるよう今後ご協力いただきたい」と賞状を手渡しました。

西ノ原浩一自治会長は「古くから続いている活動。地域では高齢化が進み、若い担い手の確保は簡単ではないが、地域を自分たちで守るという思いをもって今後も頑張っていきたい」と話しました。

車いす寄贈

九州郵便局長協会から伊佐市に折り畳み式車いす2台が寄贈されました。贈呈式に出席した針持郵便局の隈元啓一郎局長は「市内に10ある郵便局のコミュニティを活かし、連携を取りながら、市民のみなさんが安心安全に暮らせるまちづくりに協力していきたい」と話しました。

寄贈された車いすは、市役所大口庁舎、まごし温泉で活用されます。

経済産業大臣賞受賞

2/5



工場緑化に顕著な功績があった工場を表彰する、緑化優良工場等表彰（全国みどりの工場大賞）で大口酒造第二蒸留所が、最高賞の経済産業大臣賞を受賞されました。

橋本市長に報告に訪れた、大口酒造株式会社の向原英作代表取締役社長は「この度の受賞は、従業員の日頃の頑張りが評価されたもので、会社全体でいただいた賞。嬉しい気持ちと感謝の気持ちでいっぱい。今後もこの状態を維持しつつ、よりきれいな工場をめざしたい」と受賞の喜びを話されました。

2/2





トンでもないおいしさ

1/26



「これからの伊佐を担う子どもたちが、元気に成長してほしい」という願いを込めて、サンキューミート株式会社から市に鹿児島県産黒豚肉 62Kg が寄贈されました。いただいたお肉は「豚汁」として学校給食で提供され、羽月小学校では同社員との給食交流が行われました。

参加した管理課長の立嶋佑丞さんは「子どもたちに笑顔で楽しく学校生活を過ごしてもらいたいというのが一番。お友達との勉強や運動などいろいろな楽しみがあると思うが、おいしい給食も楽しみの中のひとつになってくれると嬉しい」と話しました。

1日農業バイト デワーク研修会



2/2

伊佐市認定農業者の会主催の研修会が行われ、農業者ほか関係機関から約 50 人が参加、農家と求職者を繋ぐ無料アプリ開発者の鎌倉インダストリーズ(株)原雄二社長を講師に迎え、新たな働き方として広がる短期間だけアルバイトで農業を手伝う「1日農業バイト(デワーク)」について紹介がありました。

研修会ではアプリの操作方法や受入れ農家の心構えなどについて学び、参加者からは「働き手を確保する手段としての可能性を感じた」、「まずは自分が他農家でアルバイト体験してみたい」など前向きな声が聞かれました。



1日農業バイト

モンスターウルフ

2/6



北薩森林管理署、県猟友会伊佐支部、伊佐市の3者は、布計国有林内の新植地に野生動物撃退装置(※モンスターウルフ)と、くくりワナを設置し、防除と捕獲を連携させた新しい鳥獣被害対策の実証に乗り出しました。

北薩森林管理署の佐藤敏郎署長は「全国でも初めての取組み。15基の定点カメラも設置し効果を見極めたい」また、猟友会の清水剛史会長は「とにかく個体を減らす対策を打たないと被害は軽減しない。しっかりと連携してやっていく」と述べました。

※オオカミの姿を模し、左右に首を振りながら大音量と高輝度点滅 LED で有害鳥獣を威嚇する装置

新納忠元の教え



2/9

大口高校の1、2年生が忠元公園でロードレース大会を行いました。レースでは周回コースに加え、あえて坂道を取り入れています。それは新納忠元が定めた「二才咄格式定目」にある「山坂達者」の精神にちなんでのことだそうです。生徒らは坂道ですれ違う際に「あと少し!頑張れ!」などお互いに声を掛け合いながらコースを走り切りました。

若松陽斗さん(1年)は「きつかったが、周りの声援が励みになった。これからも体力作りを頑張ります」と話しました。

ノーサイド！



1/28

40歳以上が参加するシニアラグビー。福岡、熊本、鹿児島から4チーム、40～80代の110人の選手が伊佐市陸上競技場に集い「第1回伊佐ラグビー交流試合」が開催されました。市民団体「きばいが！伊佐」が地域活性化のために大会を企画。当日は雨も降りましたが、寒さをものともしない、ハツラツとしたプレーが繰り広げられました。

今大会の選手最高齢は福岡県の薄善行さん(82)。「地域活性のお手伝いできてうれしい。伊佐市はとても良いところ。また来年も参加したい」と笑顔で話しました。

上手に焼けたよ



2/4

曾木小学校の児童らが、ピザ窯を使ったピザ焼体験を行いました。同校の名物イベントであったニジマス釣り大会が、プールの改修等に伴い実施できなくなったことを受け、同校の親父の会とコミュニティ協議会が思い出づくりにと企画しました。

参加した小島羽衣音さん(6年)は「ピザ作りは初めての経験。好きな具材だけを乗せて自分好みのピザができた。大満足です」とアツアツのピザを頬張りました。

被災地の復興を願う



1/27

大口ロータリークラブと、大口明光学園高校インターアクトクラブの生徒9人が、合同で能登半島地震の義援金を集める募金活動を実施しました。ニシムタ大口店で行われた募金活動では、多くの人が笑顔で応じ被災地の早い復興を願いました。

参加した前田悠貴部長(2年)は「水俣市出身で熊本地震を経験した。今の自分があるのは多くの支援があったおかげ。苦しい思いをしている被災者の役に立てばうれしい」と話しました。

希望の架け橋へ



2/10

令和3年7月の豪雨により被災した、羽月西校区第二辺母木橋の復旧工事が竣工し、渡り初め式が行われました。

親子三代で渡り初めに参加した、辺母木自治会の今吉光一自治会長は「歴史が長く、みなさんそれぞれに思い入れのある橋だったので、水害で流されたのを見ると辛かった。自治会も人が少なくなる中で、完成した橋が地域同士を繋ぐ希望の架け橋になることを願っています」と話しました。



1/25

安全運転で

伊佐市シルバー人材センターが、まごし館前で交通安全キャンペーンを行いました。「おめめパッチリパンジー大作戦」と称し、パンジーの苗約500株をドライバーへ手渡し、安全運転を呼びかけました。

安全委員長の池田伊智子さんは「会員たちが交通安全の願いを込めて育てたパンジー。大切に育てて交通安全意識を高めてほしい」と話しました。